

## 青果物輸送等を通じ地元経済の発展に貢献 基幹産業を支える運送会社として成長を期す

旭市は、地域の基幹産業として近郊農業が発展しており、トマトやキュウリなどの生産が多いほか、畜産や米などの生産も盛んで、県内第1位の農業産出額を誇っている。  
昭和28年の設立以来、青果物輸送等を通じて地元経済の発展に貢献してきた北総通運(株) (飯田周作代表取締役社長)。青果物輸送で課題となっていた荷積み・荷卸し待ちの改善が進みつつある中、今後は飯田社長が長年培ったITスキルを活かした物流DX(デジタルトランスフォーメーション)への取り組みを通じ、さらなる輸送の効率化にチャレンジする。



青果物を輸送する同社のウイング車の前で、力強いガッツポーズを見せる飯田社長

### ■交渉を重ね荷待ち改善と運賃値上げを実現 ITスキルを活かし物流DX化に取り組む

北総通運(株)は昭和28年に国鉄(現・JR東日本)総武本線旭駅前で設立された運送会社で、設立当初は野菜や米、落花生や水あめなどを生産地から本社営業所までトラックで輸送し、貨物列車で東京まで輸送する通運事業者だった。昭和30年代中頃に、旧日本海軍の航空基地だった香取航空基地の跡地に「あさひ鎌数工業団地」が形成され始めると、工業団地内の製造工場で製造された黄銅製品の輸送も手がけるようになる。昭和48年に旭駅での貨物取扱が廃止されたのを機に、翌49年に市内の別の場所に本社を移転。さらに、平成元年に、本社を現在地に移転している。現在同社では、地元産の生鮮野菜の集荷・配送、黄銅製品の輸送のほか、建築資材やしょうゆ、コーンスターチ、牛乳などの食品輸送、また市内小・中学校への給食配送も手がけている。

旭市は古くから、豊かな地力と温暖な気候を生かした野菜生産が盛んで、同社では地元で生産されたトマトやキュウリなどを大消費地である首都圏の青果市場まで輸送している。かつては青果物輸送において、手荷役作業が主体となっていた時代もあったが、近年ではパレット化が進んでおり、荷役作業の負担軽減に繋がっているという。一方で、出発地で出荷量が直前まで決まらないことや、市場や物流センターでの荷卸し時間が集中することにより、ドライバーの待ち時間が長いことが大きな課題であった。また、競合する運送会社も多かったことから、一時値下げを余儀なくされることもあった。

同社では荷待ち改善と適正運賃・料金収受を実現させるべく、生産者側に対して「物流の2024年問題」について説明。ドライバーの労働時間の制限が厳しくなることでドライバーの給料が減少し、これまでのように輸送を維持することができなくなると訴えた上で、トラックへの積込み時間の前倒しと運賃値上げに向けた交渉を実施。その結果、荷積みの際の待ち時間を1時間減らすことができたとともに、運賃の値上げも実現することができた。

「生産者側に要望を持ちかけた当初は『絶対に無理だ』と言われ

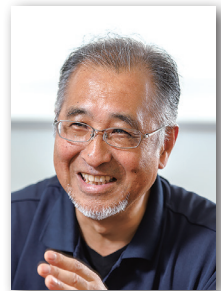
ました。一方で、徐々に生産者側にも『物流の2024年問題』への理解が広がってきたこともあり、積込み時間の前倒しに繋げることができました。また、運賃交渉に際しては、かつては運賃水準が抑えられていたこともあり、強気で値上げ交渉に臨みました。5年前の改定で、値下げ以前の運賃水準に戻すことができていましたが、今回の交渉でさらなる値上げを実現することができました」(飯田社長)

一方で、市場での荷卸し待ちに関しては、自社以外の運送会社も多く絡んでくるだけに解決が難しい問題ではあるが、同社ではデジタルタコグラフで取得した荷卸し待ちの時間を荷主に示した上で、待機料金の負担を要請。荷主の理解を得て待機料金を収受できるようになったという。なお、運賃・料金の上昇分については、賃金増などでドライバーに反映させている。

一方で、同社のトラックには全車にデジタコが搭載されているものの、なかには待機や休憩などの際にボタンを押し忘れるドライバーもいるという。デジタコを付けていても、ボタンを正しく押さないや労務管理ができなくなってしまうため、同社ではドライバーに対してボタンを押し忘れないよう指導するとともに、この4月から適用された改正改善基準告示の徹底を呼びかけている。

さて、同社では2年前に、ドライバーへの安全教育に関して「eラーニング」を新たに導入した。これは、ドライバーにパソコンやスマートフォンで15分ほどの動画を見てもらい、その後に出題される問題を解いてもらうもの。全問正解できないと、再度問題に挑まなければならない。ドライバーはみな真剣にeラーニングに取り組んでいるという。

「当社ではかつて、座学による安全教育を実施していましたが、座学では一方通行になりがちで、管理者が伝えたいことがドライ



飯田 周作  
代表取締役社長



飯田社長は入社以来、ドライバーと積極的にコミュニケーションをとるよう努めてきた



同社では安全教育に「eラーニング」を導入し、ドライバーの事故防止意識向上に繋げている



荷待ち改善と適正運賃・料金収受を実現させるべく、飯田社長は荷主に対し果敢に交渉を行っている

パーにしっかり伝わっているかが曖昧でした。eラーニングでは、管理者が各ドライバーの受講状況や習熟度を確認することができるため、事故防止への効果が高まっていると感じています」(同)

同社には現在 33 人のドライバーが在籍している。同社では 65 歳定年制を採っているが、今も 70 歳のドライバーが 4 トン車や大型車などに乗務しているという。一方、コロナ禍で飲食業界が経営的に苦境に立たされたこともあり、飲食業界から同社に入社してきた 30 代の若者もいる。同社ではそれまで運送業界未経験者の採用は行っていなかったが、新人ドライバーの活躍ぶりを見て「若い人材を大事に育てていきたい」と方針を転換。今後は市の雇用対策協議会が主催する合同企業説明会にも参加し、若年層獲得に繋げていきたいとしている。

さて、飯田社長は現在 67 歳で、地元旭市の出身である。大学入学時に東京に移り、卒業後は IT 関連会社に勤務していた。平成 8 年、40 歳になる直前で地元金融機関に入社し、システム部門で経験を積んできた。定年を間近に控えた頃に、同社の先代社長から、自分の跡を継いでくれないかと打診があったという。それまでトラック運送業界での経験が全くなかった飯田社長は、その申し出を断った。しかし、実は先代社長は飯田社長の親戚筋の人であり、先代社長も金融機関を経て同社に入社し、経営を率いてきたのである。飯田社長は、先代社長からの強い説得に応じて、30 年に同社に入社。引き継ぎを行った上で、令和元年に同社の社長に就任した。

飯田社長は入社当時、これまで長年過ごしてきたシステム業界とトラック運送業界の文化の大きな違いに面食らったという。しかし、飯田社長は積極的にドライバーとコミュニケーションをとるようにし、ドライバーがどのような思いをもって日々の仕事に取り組んでいるのかを理解するよう努めたという。

「当社は先代社長の時代から、ドライバーはみな穏やかで、従業員間の距離がとても近かったです。ドライバーと積極的にコミュニケーションをとるように努めたことで、ドライバー一人ひとり

の考え方だけではなく、次第にこの会社の文化も分かるようになってきました。人材教育に際しては、従業員に対して高圧的に話をするのではなく、従業員の要望をできる範囲で聞きながら、経営者と従業員のお互いが納得度の高い形で進めるよう心がけています」(同)

今後に向けては、物流のさらなる効率化が求められている中で、飯田社長のこれまでの経験で培ってきた IT スキルを活かしながら、運行管理や点呼の IT 化など、物流 DX (デジタルトランスフォーメーション) への取り組みを加速させていきたいとしている。かつて、同社では首都圏からの帰り荷の確保に苦心していたことがあり、飯田社長も入社してすぐに改善の必要性を感じたという。そこで、飯田社長は改善策として求荷求車システムを導入。現在では同システムを活用し、実車率向上に繋げている。

また、地元で生産されている青果物の集荷・配送をメインとしてきた運送会社として、今後も社業を通じ地元経済の発展に貢献していきたいと、飯田社長は考えている。

「旭市は、キュウリとトマトの指定産地として国から定められているだけでなく、米や果実、花卉、畜産物から水産物まで揃う『食の宝庫』です。しかし、これらの生産物を大消費地である首都圏まで輸送する運送会社がなければ、地元経済を支えるこれらの基幹産業も立ち行かなくなってしまいます。地元の基幹産業を支える運送会社として、今後も社業を通じて農業の発展に貢献していきたいです」(同)

さて、飯田社長は今年 6 月から、県北東部の旭市と匝瑛市、山武郡の一部をエリアとする海匠支部の支部長に就任。支部内の会員事業者の結束を強く訴えている。

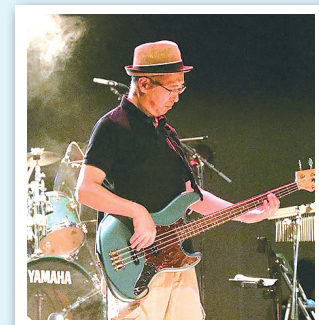
「『物流の 2024 年問題』をはじめ、業界を取り巻く環境はとても厳しいものがあり、個々の運送会社の取り組みだけでは解決できない課題も数多くあります。しかし、海匠支部の会員事業者には非常に強い結束力があります。支部の仲間たちで協力し合いながら、この厳しい時代を乗り越えていきたいと考えています」(同)

## ホットにゆーす

### ■学生時代から続けてきた音楽活動 自慢のベースでバンドの一体感を演出

飯田社長は学生時代から音楽活動を続けており、東京では社会人バンドを結成して活動していた。平成 8 年に旭市に戻った飯田社長は、昭和 30 年代から続く夏の一大イベント「旭市七夕市民まつり」や音楽の祭典「旭市民音楽祭」でも演奏してきた地元バンドに参加。担当楽器はベースで、J-POP やアニメソングなどを演奏するという。

「気の合った仲間と大きな音を出すことでストレス解消にもなりますが、何といたってもメンバーと息が合ってビシッと決まった時の爽快さは、何にも代えられません」(同)



ベーシストとして長年地元のバンドに参加し、ライブ演奏を行う飯田社長

| 企業プロフィール |                     |
|----------|---------------------|
| 北総運通株式会社 |                     |
| 代表取締役社長  | 飯田 周作               |
| 本社       | 千葉県旭市ニの 5969        |
| 従業員      | 42 人 (うちドライバー 33 人) |
| 台数       | 42 台                |